

9 . 本時の展開

	主な学習活動	指導・援助	留意点
導入	<p>前時の学習を振り返る。 がまくんは手紙が来るわけではないとあきらめ、悲しくていらいらしている。かえるくんは、そんながまくんを何とか励まそうとしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習を振り返りやすくするための掲示をしておく。 	
課題化	<p>今日の課題を確認する。 お手紙のことを話しているときのがまくんや、かえるくんの気持ちを考えて、声の大きさや高さ、読む速さに気をつけて音読しよう。</p>		
課題追求	<p>4 場面を音読する。</p> <p>がまくん、かえるくんの気持ちが分かるところにサイドラインを引く。 がまくん：「来やしないよ」「きみが」「ああ」「とてもいいお手紙だ」 かえるくん：「きつとくるよ」「ぼくが君にお手紙出したんだもの」 ふたり：とてもしあわせな気持ち</p> <p>全体で気持ちが表れているところを確認し、気持ちを考える。 がまくん： ・初めてお手紙をもらえるからうれしいよ。 ・かえるくん、いいお手紙をありがとう。 ・かえるくんはぼくのことを心配して手紙を書いてくれたんだね。 かえるくん： ・喜ばせたくて思わず言ってしまった。 ・がまくんが喜んでくれたからうれしい。</p> <p>ペアで役割分担をして、音読の練習をする。(会話読み)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・読み方につまずいている児童に助言する。 ・ラインがなかなか引けない児童には、前時までの気持ちを思い出させたり、会話文に注目させる。 ・P 6 と P 1 4 の挿絵を比べてがまくんの気持ちの変化していることをわかりやすくする。 ・苛立ち 驚き 感動 しあわせをおさえ、注目すべき「ああ」を取り上げる。 ・文からだけではわかりづらいので挿絵からうれしそうにしているかえるくんの気持ちをとらえやすくする。 ・音読の仕方の確認をする。(声の大きさ、高低、読む速さ) ・棒読みになっている児童には板書から気持ちを確認させ、それに合わせて声の大きさや高低、読む速さを変えてみることを促す。 ・全体に広めたい音読ができていないペアを意図的に指名をする。 ・どんながまくん、かえるくんになって音読したのかも話させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・がまくん、かえるくんに分担する。 ・時間に余裕のある児童は書き込みをさせる。 ・読み取りをしたがまくん、かえるくんの役で会話読みをする。 ・積極的にアドバイスをしているグループを認め、まわりに広める。 ・振り返りカードに書く
終末	<p>4人グループになってお互いに聞き合い、よいところやなおすとよいところを交流する。</p> <p>全体の場で4場面の音読発表をする。</p>		
評価	<p>本時を振り返って自己評価をする</p>		

